

令和7年に65周年を迎える社会福祉法人。廃寺を活用して地域交流施設を開設したことから始まり、現在は石川県内に福祉を核としたさまざまな施設・事業所を展開している。

世代や国籍、障がいや疾病の有無に関わらずつながり合う「ごちゃまぜ」のコミュニティづくりに取り組んでいる。



B's 行善寺施設内（左：売店）（右：蕎麦屋）

大規模な法人施設 幸福度の高い職員と 利用者に驚き

石川県白山市にある社会福祉法人佛子園「B's 行善寺」「Share 金沢」へ訪問しました。

白山市は人口約11万人で、石川県内では金沢市に次ぐ2番目に人口の多い都市です。

佛子園は障がい者・高齢者・保育・医療・まちづくり事業と幅広い事業に取り組まれています。

従業員は約1,000名（非常勤職員含む）、年商約100億円の事業規模で、組織図を拝見すると、9地域にグループホームが35か所、それぞれウェルネスも設置されており、「二見してレジャーランドみたい」との感想があつたほどです。

スライドでの事業紹介とグルー

プホームの見学、昼には施設内の食堂で「天ぷらそば」をいただきました。デイサービスで来られていた高齢者の方とヘルパーさんの会話が楽しそうで声を掛けました。「ここは楽しいよ。障がいのある方も働いていて、すべてがごちゃまぜで分け隔てないのがいい」と言う。そんな社会がここにはあつた。

障がいのある方も気さくに声を掛けてくれて「北海道から来たの？何の用事で来たの？」と不思議そうに尋ねてくれました。

また、突然輪に加わってきた男の子は「結婚して欲しい」と抱きついてくるほど人懐っこく、その場は自然と笑顔に包まれました。

この施設内には温泉がでており、関係者以外の地域住民にも解放され、入湯できるようになっていきます。オープンな関係性もとても素敵です。

「あらゆる世代にまたがって、まちづくりをしているのは「Share 金沢」が初めて」と理事長の雄谷良成さんは話され、そのコンセプトで暮らす方たちは幸せだなと思っていました。

（総務常任委員長 遠藤 八ル子）



Share 金沢施設内

【石川県白山市の概要】

白山国立公園や、県内最大の流域を誇る一級河川手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域で、「白山手取川ジオパーク」は、2011年9月5日に日本ジオパークに、2023年5月24日ユネスコ世界ジオパークに認定されている。

総面積は754.92km²であり、石川県全域の18%を占め、県内最大の広さ。



能登町は能登半島の北部に位置し、平成17年3月1日、能登町・柳田村・内浦町が合併して誕生しました。

産業分野では、豊かな自然を背景とした第1次産業が町の基盤となっています。

令和7年10月1日現在の世帯数6,838戸、人口1万3,896人となっています。

令和6年1月1日（月）16時10分頃、マグニチュード7.6の地震が発生しました。能登町では、震度6強の揺れを観測し、津波も発生しました。

役場危機管理室 道下政利氏によると、被害情報が把握できない中で開始された避難所設営だったそうです。「少しずつ情報が集まり、備蓄品を避難所に送る手配を始めたが、職員が少ない上、道路状況も不明であり、年末年始の帰省者

で人口は、1.5倍になっていた。備蓄品は圧倒的に不足していました。厳しい中でしたが、平時に築いた地域コミュニティが災害時に大きな役割を果たしました。各区長や消防団、漁協職員などの協力があり、乗り切ることができました。」経験から得たものとしては、「いざという時に誰の力を借りるのが想定しておく、地域コミュニティとの情報共有や顔の見える関係づくりが助け合う力になる、被災経験のある自治体や民間の協力を得ることが復興への後押しになる。」とても説得力のある説明でした。

我が町も備えは万全にしなければならぬと思う知らされた研修となりました。

（総務常任副委員長 谷口 雅浩）



【石川県能登町の概要】

能登半島の北東部にある自然環境に恵まれた町で、四季折々の農林水産物がある。

農業では、稲作をはじめとして、ブルーベリーや能登牛が特産品となっており、漁業では、イカ釣漁業と定置網漁業が全国的にも有名で、定置網で獲られたブリは「宇出津港・のと寒ぶり」としてブランド化されている。

10/27-30

合同行政視察調査

総務常任委員会・産業建設常任委員会

震災からの教訓 備えは地域を守る力に

本町における福祉の充実及び災害発生時の対応、農業のさらなる振興等に向けて、石川県の「社会福祉法人佛子園（B's 行善寺）（Share 金沢）」や「金沢市農産物ブランド協会」など5か所を視察・調査しました。